

事業報告書

団体名： Team DO IT!!!

1.メニュー名	申請メニューにチェック☑をしてください。 <input checked="" type="checkbox"/> タート事業 <input type="checkbox"/> ステップアップ事業 <input type="checkbox"/> 市民連携事業
2.事業名	ムラサキガーデンプロジェクト
3.対象	事業の対象となった地域や地域住民を記入してください。 亀岡市民。京都市、南丹市など周辺地域住民。Jリーグ来訪者
4.期間	実施期間を記入してください。 ※対象期間は最大で令和4年4月1日～令和5年3月31日までです。 令和 4年 6月 1日 ~ 令和 5年 3月 31日
5.地域課題・事業目的	支援金申請書に記入した、地域課題・事業目的を改めて記入してください。 課題： 亀岡市の人口は微減傾向が続き、その背景には市民に「何もない地元」という意識があり、郷里に愛着や誇りを持てる何かがなかった。2020年に京都府、亀岡市が共に巨額の資金を投入して建設されたサンガスタジアム by Kyoceraが完成。亀岡市の新たなランドマークともいえるこの施設も、京都サンガF.C.がJ1リーグに昇格し、注目度が上がってはいるが、まだまだ「市民の誇り」という施設にはなっていない。 誇れる施設となるには、市民がこのスタジアムを愛して、未来には多くの市民でこのスタジアムを支えていく風土が必要である。そして、そのためには市民のマインドを、ムラサキ色で盛り上がるスタジアムに、もっと向ける必要がある。 事業目的：ムラサキ色をキーワードにして、亀岡市のポテンシャルとも言える「自然」「農」を用いた事業をスタジアムのそばで行うことで、既存市民や周辺地域住民、またJリーグ観戦来訪者などにこの地の魅力をアピール。スタジアムを取り巻く環境のなかで多くの人たちを巻き込んで行うことで、親戚のあつまりのような関係性をつくり、スタジアムへの興味、京都サンガF.C.への興味を喚起。共通の盛り上がる話題をつくり、マインドが変わることで市民にとってここが新たな「居場所」となっていく。その結果、この地に魅力を感じた人たちの他地域からの移住促進やシビックプライドの醸造。スタジアムへの愛着、誇りを市民が持つことにつなげる。そうして、市民が流出するまちから、人が「集まる」あるいは「帰ってきたい」まちへと変えていくきっかけを創出すること。
6.実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。 (実施日、場所、内容、講師名、参加者数、参加者の声、その他情報など) 6/4 球根の掘り取りイベント【畑】 21名参加 前年度事業で育てたチューリップの球根を掘り上げて、市民に持ち帰って植えていただく（紫チューリップを街に広める）旨のイベント イベント終了後に、委託により耕地。 余剰の球根（約1000球）は、亀岡市こども未来部保育課さまを通じて、市内の保育園に配られることになり、園児のみなさんの情操教育に活用していただくことになった。 6/26 次期チューリップアート考案のワークショップイベント【畑+ファームハウス NaNa】 7名参加 チューリップ畑予定地を見学してイメージを膨らませ、ファームハウス NaNa に移動して、紫

色に変色するハーブティー（ブルーマロウ）楽しみながら参加者でディスカッションを行った。
 7月～9月 チームメンバー2～3名による圃場整備（主に草刈り）を月2回程度行う。
 チューリップのない夏季に別事業にて、紫サツマイモを同所で間作として栽培した。
 10月にサツマイモを収穫して撤収し、委託により耕地。11月上旬チューリップ用の畝を再構築。
 11/10 亀岡市東部保育所において、園児の皆さんの球根植えつけ（6月収穫分）に参加。この模様が京都新聞丹波版で紹介される。
 11/23 チームメンバー4名にて、チューリップアートの描画作業。
 11/27 チューリップアートの球根植え付けイベント 24名参加
 ※開花状況により4月に開花イベントを開催する予定です。

7. 成果と課題	事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成果と課題を下記の①～③ごとに記入してください。
----------	--

- ① 実施結果数値（6. で記入した事業の回数や参加者数などをまとめてご記入ください）
 チューリップアート主催イベント 3回 のべ52名参加（うち地域外参加10名）
 チームメンバーによる圃場整備 6回 のべ13名参加
 SNSへの投稿（レポートやイベント告知） 13回
- ② 事業による変化・成果目標（課題解決にどのような効果があったのか）
- ・前年度も同じ事業を行ったが、明らかに「初見の参加者」（植え付けイベントにて11/23人）が増えました。またサンガサポーターなど京都市からの参加（4人）の方も増え、地域外の方にもイベント自体の認知度アップと共に、サンガのゲーム以外でもこの地とつながってもらえることができました。
 - ・京都サンガの紫を使う（紫の花、横断幕の掲出、作業時にサンガのユニフォームを着用してもらう）ことにより、参加者のサンガへの意識の高まりを感じたり、「試合チケットをとってほしい」という要望をいただくこともあり、共通の話題で盛り上がる（居場所づくり）という当初の目的の達成に向けて、前進できていると感じられる。
 - ・イベント時に、参加者のお子さん同士が仲良くなって遊んだり、親子が共同で作業する光景を見ると、いろいろな絆を深める活動ができているのではないかと感じる。
 - ・今年の実活動メンバーは前年事業のイベント参加者が多く、共感を得た仲間が増えて、さらにその輪を広げていくことは、チームの活動趣旨においても良い傾向であるといえる。
- ③ 事業を実施しての課題
- ・チューリップは、春の2週間足らずの間しか咲かないので、イメージ戦略はできても対費用効果が悪い。チューリップアートを有料集客イベントにする体制がなく、現状で事業を自走式で回していくには、他事業連携など考えるべきことが多い。
 - ・今後の広報を考えた場合、SNSに加えて、アナログのチラシ、また動画投稿サイトの活用も不可欠であり、参加者同士がコミュニケーションできる場があれば、活動の幅が広がる可能性がある。
 - ・圃場整備において、農作業のできるメンバーが、もう少し必要である。

8. 協働の効果	今年度の事業実施にあたって、他団体等と協働（協力）された事例がある場合は、その効果や今後の関わり方について、記入してください。
----------	---

ファームハウス NaNa/Rainbow Farm：農家民宿の施設を使ってワークショップを行ったり、圃場の耕地を委託。また草刈り機などの農機を貸与していただきました。
 亀岡市こども未来部保育課：収穫した紫チューリップの球根を保育園に配布いただき、まちを紫にする

<p>活動にご協力いただきました。今後も継続して同様の活動ができれば素敵だと思います。</p> <p>亀岡市生涯学習部生涯スポーツ課：同課で運営されている、「わがまちサンガ応援隊」のLINE配信において、イベント告知の情報を配信していただき、参加者増にご協力いただきました。また、同課のフォトラリーイベントに、チューリップ畑を使っていただきました。今後も協働していただければ幸いです。</p> <p>奥田百恵さま（書家）：以前からイベント用の広報幕の題字をデザインしていただいていたのですが、今回はチューリップアート本体のデザインにご協力いただきました。また、そうした我々と連携した書物が、たくさんの書家様が掲載されている作品集の本で紹介されるという嬉しい出来事がありました。今後も、互いに応援しあえる間柄でありたいと思います。</p>		
9. 今後の展開		事業の実施成果と課題を受けて、今後の事業展開をどのようにされるのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。
	実施内容	資金獲得方法（助成金・寄附金）
2年目	チューリップのない季節にも花を咲かせて、通年で注目される存在となり、多くの方の「居場所」となりたい。ムラサキイモ栽培は、今期の経験を活かす。	各種支援金 現場寄付またクラウドファンディングなど 他事業収入 イベント参加費
3年目	協働してくださる方や団体様のやりたいこともできるように、体制的、金銭的にもこの活動をできる限りレベルアップしたい。	各種支援金 現場寄付またクラウドファンディングなど 他事業収入 イベント参加費 企業協賛金
10. SDGsへの取組		SDGs（持続可能な開発目標）は「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2030年までに達成すべき17のゴール（目標）と169のターゲット（具体的目標）から構成されています。今回実施された事業によって取り組めたゴールの番号と内容をご記入ください。
番号	取組の内容	
11, 15, 17	亀岡市所有の未耕作地を使って、にぎわい作りを行いました。その結果、協働する方々のお手伝いも間接的にできたり、イベント参加者も含めて、パートナーシップを深めることができました。	

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料がある場合は添付してください。

※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。



チュールリップアート植え付けイベント





チューリップアート描画



畑整備



アート考案ワークショップ





保育課さまへの球根寄贈